

東アジアのカント哲学及び平和論の現代的意義の国際的共同研究

MAKINO, Eiji / 牧野, 英二

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 (科学研究費補助金) 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

4

(発行年 / Year)

2012-03

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年3月31日現在

機関番号：32675

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21652003

研究課題名(和文) 東アジアのカント哲学及び平和論の現代的意義の国際的共同研究

研究課題名(英文) The international cooperative study of Kant's philosophy and contemporary significance of theory of peace in East Asia

研究代表者

牧野 英二 (MAKINO EIJI)

法政大学・文学部・教授

研究者番号：70165679

研究成果の概要(和文)：本研究は、次の研究成果を挙げた。第一に、日本、韓国、中国・台湾等の東アジアにおけるイマヌエル・カントの平和論及び哲学の現状と課題を解明した。第二に、カント平和論研究の東アジアの国際的ネットワークを構築した。第三に、日本、韓国、中国・台湾におけるカント哲学の今後の課題を解明することができた。第四に、東アジアにおけるカント哲学及び平和論の現代的意義の国際的共同研究の重要性を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：This study raised the following research results. First, I clarified the current status and issues of theory of peace and the study of philosophy of Immanuel Kant in East Asia, i.e. Japan, Korea, China, and Taiwan. Secondly, I built the international network of the peace study of Kant in East Asia. Third, I was able to elucidate future problems of Kant's philosophy in Japan, Korea, China, and Taiwan. Fourth, I could illuminate the importance of the international cooperative study of Kant's philosophy and contemporary significance of theory of peace in East Asia.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	0	900,000
2010年度	700,000	0	700,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	180,000	2,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：哲学原論・各論

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始当初の当該研究状況

① 21世紀においてカント哲学及び平和論研究は、グローバルな規模で進展し、その今日的意義についても注目されてきた。

② それにもかかわらず、東アジアの韓国、中国・台湾等の東アジアの漢字文化圏では、日本の当該研究との関連も含め、当該領域の研究の現状や研究者相互の国際的な共同研

究のネットワークも存在しなかった。

③ その結果、東アジアにおけるカント哲学及び平和論研究は、欧米等にみられるような活発な研究交流を欠き、相互の研究成果の公表の機会もないまま、日本、韓国、中国・台湾の特定地域内で個別的に進められていた。

(2) 研究代表者の研究状況

① そうした状況の中で、研究代表者は、研

究開始当初の数年前に韓国・ソウル市内の中央大学校において開催された韓国カント学会で日本人として初めて講演する機会を得た。

②また、その直後に拙著『カントを読む』（岩波書店、平成15年刊行）の韓国語訳が企画され、台湾では研究代表者は、その数年前に国立政治大学等で講演する機会を得て、一定数の台湾のカント研究者との面識を得た。

③さらに中国では、2004年から中国語版カント著作集が全9巻の予定で刊行が開始された。また、研究代表者は、その間、中国の哲学研究者との研究面での接触を得る機会を得た。

(3) 東アジアの国際的共同研究の展望

①そこで、本研究代表者は、こうした急速に進展する東アジア文化圏におけるカント哲学及び平和論研究状況に着目した。

②研究代表者は、漢字文化圏における先進国ともいべき日本のカント研究者であり、岩波書店版カント全集の企画・編集者で訳者も務めた実績を踏まえて、この機会にカント研究及び平和論の現代的意義の国際的共同研究を実施しようと意図した。

2. 研究の目的

(1) 研究目的の意図

①研究代表者は、国際化の中で、カント哲学、特に平和論の現代的意義への着目が盛んな欧米の研究状況を踏まえて、東アジアの研究状況の把握の重要と意義に着目した。

②そこで本研究では、漢字文化圏に属する日本、韓国、中国・台湾におけるカント哲学及び平和論の現状と課題、意義を解明することを目的とした。

(2) 研究目的の狙い

①日本、韓国、中国・台湾には一定数のカント研究者及び平和論研究者が存在するにもかかわらず、相互の当該領域にかんする研究交流がまったくなかった。

②そこで研究代表者は、本研究目的として、当該の研究課題として上記の諸国の研究者間の連携を図り、相互の国際的共同研究のネットワークを構築することにした。

③それとともに漢字文化圏に属する韓国、中国・台湾におけるカント哲学及び平和論の現状と課題、意義を解明するために、これらの国で刊行されている当該の基礎文献、特に一次文献の収集と翻訳を行い、そのリストの作成を目的とした。

3. 研究の方法

(1) 初年度の研究方法

①初年度は、韓国、中国・台湾におけるカント研究上の基礎文献の収集に努めた。

②研究代表者は、特に平和論の観点を考慮して、当該諸国の研究者の協力を得て、カントの一次文献と二次文献の収集を重点的に行った。

(2) 二年目の研究方法

①研究代表者は、二年目には、初年度に収集した諸国の関連資料の翻訳・紹介・研究・整理等に重点的に取り組んだ。

②研究代表者は、そのために当該の韓国、中国・台湾の研究者との研究交流を進め、その機会を活用してアドヴァイス等も積極的に受けた。

(3) 最終年度の研究手法

①研究代表者は、最終年度には、これまでの研究成果を踏まえて、韓国、中国・台湾におけるカント哲学及び平和論に関する共同研究及び研究成果公表のための研究会または国際学術会議の開催を計画した。

②それによって、韓国、中国・台湾における当該研究の国際的共同研究の構築とその成果を共有できるように試みた。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

①研究代表者は、韓国、中国・台湾におけるカント哲学及び平和論研究の一次文献及び二次文献の多くを収集し、当該の研究者の協力を得て、韓国語及び中国語の日本語訳を行い、その主要な文献のリスト化を実現した。

②研究代表者は、韓国、中国・台湾で開催された国際学術学会に多数回出席し発表して、相互の研究成果の共有と情報交換を行うことによって、カント哲学及び平和論研究者との研究上の連携を強化し、その国際的ネットワークを構築することが可能となった。

③従来の漢字文化圏における日本、韓国、中国・台湾における独自に研究され、相互に没交渉の当該研究領域での研究の現状と成果、そして直面する課題について、ある程度の相互理解が実現できた。

④さらに研究代表者の著作『カントを読む』及び編集したカント文献『カント事典』（弘文堂、平成9年刊）の2冊の日本語文献の韓国語訳を実現することができた。それによって、韓国における日本のカント研究及び平和論研究の一定部分を韓国の研究者に翻訳・紹介する機会を得た。

⑤これらの研究成果を蓄積した結果、日本、韓国、中国・台湾における本研究目的を滞りなく実施することができた。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

①本研究による韓国、中国・台湾でのカント哲学及び平和論の国内外の重要な位置づけ及びインパクトは、何よりもカントの永遠平和論と韓国の国民的英雄とされる安重根の東洋平和論との比較研究にある。この研究成果によって、国内外、特に韓国、中国における安重根の平和思想を解明することができた。

②その結果、研究代表者による研究成果は、現在の韓国及び中国の安重根の平和思想の新たな指針を提供することになった。例えば、韓国人の研究者が執筆した著作の日本語訳書、姜昌萬監修『図録・評伝 安重根』（日本評論社、統一日報社編、2011年4月刊）では、研究代表者の安重根の平和思想、特にイマヌエル・カントの永遠平和論と安重根の東洋平和論との比較研究が紹介され、高い評価を受けている。本書の刊行により、日本における安重根の東洋平和論とイマヌエル・カントの永遠平和論との関係について、国内でも広く社会的に知られる機会を得た。

③研究代表者は、研究目的実施中の2010年5月にイタリア・ピサ市で5年に一回開催される第11回国際カント学会で、招待講演者の一人として、アジアの視点からカントの世界市民主義の意義にかんする講演を行い、その反響が5月28日付のドイツの新聞で紹介されるという成果を得た。

④このように、本研究の成果は、国内では研究代表者が会長職を務めた日本カント協会の機関誌等でも扱われ、国外では、当初の研究目標を超えて漢字文化圏だけでなく、欧米でもカント研究者の間に大きなインパクトやカント哲学及び平和論研究に重要な意義と研究上の役割を与えることができた。

(3) 今後の展望

①今後の展望としては、第一に本研究目的で掲げた韓国、中国・台湾におけるカント研究の成果を長い伝統のある日本の当該研究との関連から位置づけ、漢字文化圏における日本、韓国、中国・台湾における文化的差異と共通性の両面から、カント哲学全体に拡大して考察することにある。

②そのためには、漢字文化圏におけるカント哲学全体の翻訳・受容の影響作用史の研究が不可欠となる。

③この新たな研究課題の遂行のためには、本研究の遂行の過程で構築した漢字文化圏におけるカント哲学及び平和論の研究者のネットワークが重要な役割を果たすはずである。

④それに加えて、今後の当該研究は、漢字文化圏における日本、韓国、中国・台湾における独自の歴史的・社会的文脈の中で発展し

てきた哲学や諸思想等との相互連関の研究の視点も明らかにできるであろう。

⑤今後の研究は、これまで以上に当該研究領域の国際的共同研究の活性化をもたらすはずである。

⑥さらに最終年度に企画して、福島第一原発事故の影響により実現できなかった企画、すなわち韓国、中国・台湾のカント研究者とともに、研究代表者は、日本での共同研究の国際シンポジウム等の開催を望んでいる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ① MAKINO, Eiji, Studies on Asian Culture and Accounts of the Nuclear Disaster in Fukushima : Toward Peace and Stability in East Asia. Asian Cultural Studies, Gachon University, Korea. 査読有、Vol. 25、2012、pp. 23-66.
- ② MAKINO, Eiji, The Culture of Translation and the Translation of Culture. For Peace in East Asia. The Journal for the Study of Humans and Culture, Dond-eui University, Korea. 査読有、Vol. 19、2011、pp. 5-20.
- ③ 牧野英二、Weltbuergertum und die Kritik an der postkolonialen Vernunft、法政大学文学部紀要、62号、査読無、2011、pp. 17-30.
- ④ MAKINO, Eiji, Ahn Jung-geun and the Japanese. Toward Realization of Peace in the Orient. Asian Cultural Studies, Asian Cultural Research Institute, Kyungwon University, Korea. 査読有、Vol. 20、2010、pp. 209-243.
- ⑤ 牧野英二、東洋平和と永遠平和：安重根とイマヌエル・カントの理想、法政大学文学部紀要、査読無、2010、pp. 37-52.
- ⑥ MAKINO, Eiji, Cultural Studies and the Problems of Humanity, Asian Cultural Studies, Asian Cultural Research Institute, Kyungwon University, Korea. 査読有、Vol. 18、2010、pp. 75-113.

[学会発表] (計11件)

- ① MAKINO, Eiji, Studies on Asian Culture and Accounts of the Nuclear Disaster in Fukushima : Toward Peace and Stability in East Asia. Korea Sunnam International Conference, Gachon University, Korea, 2012. 01. 13.
- ② MAKINO, Eiji, The Culture of Translation and the Translation of

Culture. For Peace in East Asia. International Conference of Cultural Studies, Dond-eui University, Korea, 2011. 10. 06.

- ③ 牧野英二、日本人が語る安重根、国際学術講演会、東義大学、韓国、釜山市、2011. 01. 07
- ④ 牧野英二、Ahn Jung-geun and the Japanese. Toward Realization of Peace in the Orient. Asian Cultural Research Institute, Kyungwon University, Korea. 2010. 09. 16.
- ⑤ 牧野英二、日本人の心と日本社会の現状—夏目漱石の『文芸の哲学的基礎』を手がかりにして、韓国社会と社会変革国際学術検討学会、中国、山東大学、2010. 07. 17.
- ⑥ 牧野英二、Weltbuergertum und die Kritik an der postkolonialen Vernunft、International Kant Congress, Pisa, Italy, 2010. 05. 25.
- ⑦ 牧野英二、文化研究とヒューマニティの課題、中・韓・日・国際学術会議、中国、山東大学、威海市、2009. 11. 6.
- ⑧ 牧野英二、安重根の東洋平和論の現代的意義、安重根ハルビン学会、韓国、ソウル市、国際会議場、2009. 10. 27.
- ⑨ 牧野英二、批判哲学と解釈学：カントとデイルタイ、国際学術研討会議、国立台湾大学、台湾、台北市、2009. 10. 17.
- ⑩ 牧野英二、翻訳の論理と翻訳者の倫理、韓国日本近代学会国際学術大会、韓国、済州大学、2009. 05. 23.

[図書] (計2件)

- ① 牧野英二、『増補・和辻哲郎の書き込みを見よ！ 和辻倫理学の今日的意義』、法政大学出版局、2010、pp. 1-103.
- ② 牧野英二、『和辻哲郎の書き込みを見よ！ 和辻倫理学の今日的意義』、法政大学図書館、2009、pp. 1-96.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

牧野 英二(MAKINO EIJI)
(法政大学・文学部・教授)

研究者番号：70165679

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

① 韓国

李泰鎮・ソウル大学名誉教授

朴眞秀・嘉泉大学教授
金相奉・全南大学教授
李京珪・東義大学教授
関根秀行・嘉泉大学教授

③ 中国

李学堂・山東大学教授
牛林傑・山東大学教授
王曉東・魯東大学教授

④ 台湾

彭文本・国立台湾大学教授
高柏園・淡江大学教授
吉田妙子・国立政治大学教授

⑤ 国内

齋藤元紀・法政大学文学部兼任講師
大森一三・法政大学大学院博士課程在籍者